

報告者

グローマー・ジェラルド
Gerald GROEMER

山梨大学名誉教授
法政大学国際日本学研究所客員所員

コメンテーター

田中 優子

法政大学名誉教授
法政大学国際日本学研究所客員所員

司 会

横山 泰子

法政大学理工学部教授
法政大学国際日本学研究所長

天下祭の音楽



歌川芳藤「神田御祭礼飯町中坂上ル図」(1849~1851) Public domain

参加費無料
対面+オンライン方式



QRコードから事前に
参加申し込みをお願いします。



2026年
6月13日(土)
14:30~16:30



法政大学市ヶ谷キャンパス
大内山校舎6階
Y605教室

「御用祭」として幕府に認められた山王祭(日枝神社)、神田祭(神田明神)、そして正徳四(一七一四)年に開催された根津祭(根津神社)は、江戸の天下祭と呼ばれた。神社からの神輿はもちろん、江戸の広い市域から出された山車も神幸行列に加わり、様々な芸能が繰り広げられる場となった。そこには音楽も重要な役割を果たしたが、祭り囃子に限らず、多くのジャンルが聴衆に提供された。各ジャンルには芸能的な意味はもちろん、社会的、政治的、宗教的な意味も含まれ、江戸社会全体を理解するひとつの鍵にもなる。